

当日の講演の撮影・録音は禁止いたします。ご協力お願いいたします。

外国を旅する時頼りになるガイドブック。そこには観光情報が記されているだけでなく、旅する人の意識が反映されています。戦前、戦後の日本で発行された中国旅行のガイドブックから、日本人が中国をどんなふうに見たり考えたりしながら旅してきたのかを探ります。

2014年6月2日(月)

5時限(16:40—18:10)

3号館3階3352教室
入場無料(予約不要)

講師：小牟田哲彦 (こむた・てつひこ)

講師プロフィール：

昭和50年東京生れ。早稲田大学法学部卒業、筑波大学大学院ビジネス科学研究科企業法学専攻修了。日本及び東アジアの近現代交通史や鉄道に関する研究・文芸活動を専門とし、紀行作品や論文を多数発表。平成7年には日本国内のJR線約2万キロを全線完乗。世界70か国余りにおける鉄道乗車距離の総延長は8万キロを超える。主な著書に『鉄馬は走りたい——南北朝鮮分断鉄道に乗る』(草思社)、『全アジア航路を行く』(河出書房新社)、『去りゆく星空の夜行列車』(扶桑社)、『鉄道と国家——「我田引鉄」の近現代史』(講談社現代新書)など。日本文藝家協会会員。

主催：中央大学文学部中国言語文化専攻

旅行ガイドブックが語る 中国旅行の歴史

